

事業名

さくらプロジェクトⅡ

目標

将来の地域の担い手としてのしなやかな感性を育む環境づくりと体験活動

1. 取組の視点

柳生中学校区の児童生徒数は 60 名に満たませんが、地域の歴史や自然を再発見・再評価する取組を進行させ、地域を守る主体となる人材を育てることを目的として様々な取組が行われています。校区の伝統として小学校より全員で行っている、木刀を用いた木剣体操をさらに子どもたちの心の支えとして機能するような工夫や、春日大社の荘園に始まる古い歴史と、水と緑と光に溢れる自然など誇り守るべき文化遺産や自然遺産が、子どもたちの心に強く響くような工夫などをすすめました。

2. 取組の概要

① サクラプロジェクト 摩利支天山再生

生徒たちの手で 46 本の桜苗木を植樹。柳生の地を誇るための、心のよりどころとして、桜の再生をめざし、西斜面を伐採し手入れを継続して行っています。

② ビオトープ ニッポンバラタナゴ里親



学校の実習用水田跡に湿性ビオトープを造成。

近畿大学との

連携により、ニッポンバラタナゴの放流を行う。大学教員より絶滅危惧種の保

護について指導を受けています。



③ 景観学習 校歌の風景

中学校の校歌の中の風景をイメージとして写した写真を地区全体に募集し、地域の自然や歴史の再評価を地域全体で取り組んでいます。



④ 地域ふれあいコンサート

小学校体育館にて、



小・中・地域で音楽を楽しむ機会を初めて実現しました。

⑤ その他の取組

小・中学校の環境整備活動・大運動会共同

開催で連携が強化しました。

3. 成果と課題



柳生の歴史や自然の中で育った子どもたちが、地域の次代を担う力となるには、中学校

だけの取組では困難である。本事業を学校と地域のコミュニケーションツールとして活用し、長期的展望に立った取組が求められています。

本事業の一部には、ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト、都市文化振興財団、毎日新聞・国際花と緑の博覧会記念協会の助成をうけました。

柳生中は上記①～③の実践により、第二回持続発展教育 (ESD) 大賞を受賞しました。

事業名

さわらびプロジェクトⅡ

目 標

地域資産や外部人材を活用し、本物に触れる体験やユネスコスクールとしての活動を行うことで、地域に対する自信を育む。

1. 取組の視点

生徒数が年々減少し、本年度は全校 18 名です。そこで、「radiate! 元気を輻射する学校」のスローガンのもと、縮小しがちな生徒活動を活性化し、学校の元気を地域に放つよう本事業を活用しました。外部指導者による本物に触れる体験学習の充実と地域や伝統文化の再発見・再評価を行うことにより、生徒に自信と地域への誇りを育むこと、ユネスコスクールとしての取組の推進を目指しました。

2. 取組の概要

○「古都ならの世界遺産現地学習」

自然と文化財に恵まれた奈良の再発見を目的に奈良公園の巨樹・巨木ウォークラリー・博物館での学習を実施。

○星空観察「きらきら星をさがそう」Ⅰ・Ⅱ

夏休みと冬休みに各 1 回、星空観察教室を開催。星座や宇宙の話のあと柳生の星空を観察し、小学生・大人も一緒に学ぶ機会を持つことができました。



○和太鼓体験学習

昨年に引き続き生徒は専門的な指導を受けました。保育園・小学校・地域にも呼びかけて実施したため、生徒発表の機会が得られ、参加者がともに和太鼓体験や鑑賞ができた。

した。

○雅楽体験学習

外部講師（南都楽所）による雅楽についての講話、「蘭陵王」の雅楽と舞を鑑賞。



○「ニッポンバラタナゴ里親プロジェクト」

近畿大学と連携した取組は、実体験が不足しがちな生徒にとって貴重な学びの機会であり、自然に関わる姿勢に乏しかった昨年からの変容は大きいです。

○人権学習

全校生徒が縦割り 3 班に分かれて、市内の障がい者福祉事業所を訪問。職業体験とともに楽器演奏・劇などで事業所の方と交流しました。

3. 成果と課題

本物に触れる体験学習は、本校ならではの機動性をいかして全校体制での取組ができています。地域等への発信も効果的で、学校の存在感が高まり、学校評価でも本事業に対する取組は生徒 88%・保護者 94%と肯定的に捉えられています。また、地域分と併せた本校の取組に対し、第 2 回持続発展教育（ESD）大賞受賞という評価を得ました。

生徒の減少が続く、統廃合の議論もありますが、地域を誇り愛する地域の担い手となる生徒の育成が引き続き課題です。

事業名

「いきいきわくわく元気な柳生っ子」プラン

目標

柳生のよさを知り、柳生を誇りに思う子どもを育てる

1. 取組の視点

これまで柳生小学校では「柳生を学び・柳生を誇りに思い、柳生を語れる子ども」を基礎とし、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子ども」を育てるため、学校と地域との協働による関係づくりを推進してきました。そして、本年度は、地域に根ざし、地域とともに創る特色ある学校づくりに取り組む中で地域の方々の様々なご協力により、柳生の特色を生かした体験活動（梅干作り、柳生焼、布目ダム見学、炭焼き体験等）や行事（剣道大会等）を実施しました。

2. 取組の概要

【剣道大会】

地域の柳生剣友会、柳生中学校、保護者のご協力で、柳生小学校の特色ある行事である『剣道大会』（今年度は第42回大会）を今年も2月の厳寒の時期に行いました。この剣道の取組により、子どもたちの心・技・体を鍛えることができました。また、規範意識の向上や礼儀を重んじる心の教育を推進することができました。



【炭焼き体験】

柳生の里山の自然を保全するため、柳生で炭焼をされている方に炭の種類や長所（よさ）を学びました。その後、実際に炭焼窯で炭焼き体験学習しました。柳生の方々が地域の子どもたちに将来

の夢を託しておられることを児童一人一人が強く感じる事ができました。



【製茶体験】

古くからお茶の産地である柳生地区の茶畑の見学や製茶体験学習を地域の方のご協力により行いました。また、煎茶道の講師として地域の方を招き、高学年の家庭科の時間に茶道体験学習も行いました。子どもたちは、「和の心」や礼儀作法について学ぶことができました。



3. 成果と課題

本事業において、柳生小学校の地域の特色ある体験学習を充実・発展させることができました。これによって、子どもたちが地域の方々に感謝をしながら、『柳生』で学んでいることや『柳生』に生まれ育ってきたことを実感することができ、今まで以上に自分たちの郷土を誇りに思う気持ちが強くなったように思います。